

事業について

石油開発事業



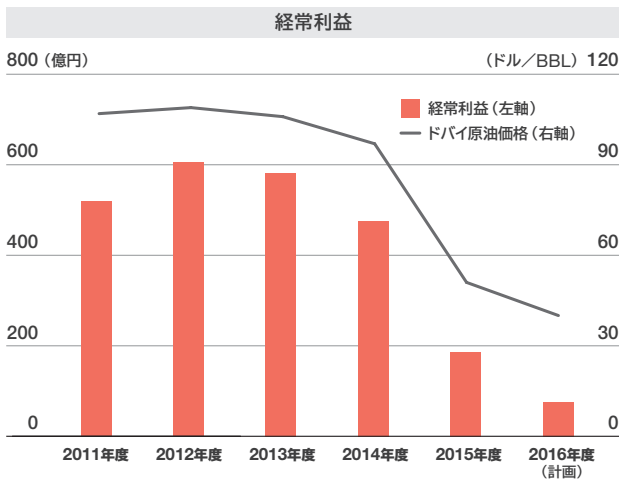
事業概要

コスモエネルギーグループは、長年の信頼関係を築いてきたアラブ首長国連邦のアブダビ首長国、およびカタール国との強い信頼関係を基盤に、開発プロセスの主導権を持つオペレーターとして、中東地域の権益に参画しています。主にアブダビ石油、カタール石油開発、合同石油開発の3社で石油開発を行っています。その中でも特にアブダビ石油のプ

ジェクトは、50年近く安定的に生産を続けており、現在は既に生産中の3油田と同等の生産量が見込まれるハイル油田の開発を推進しています。また、2014年にはIPIG※グループでスペインの総合石油会社大手セブサ社と戦略的包括提携を締結、同11月にはコスモアブダビエネルギー開発へセブサから20%の出資を受け、提携の強化を図っています。

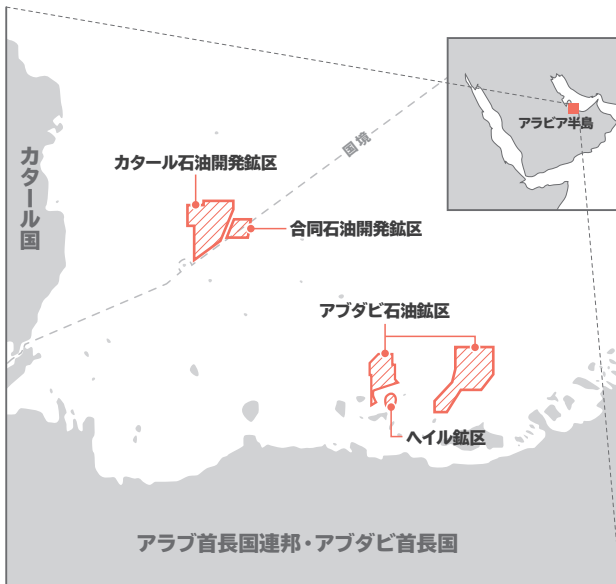
※アブダビ首長国100%出資のエネルギー関連投資会社

業績推移

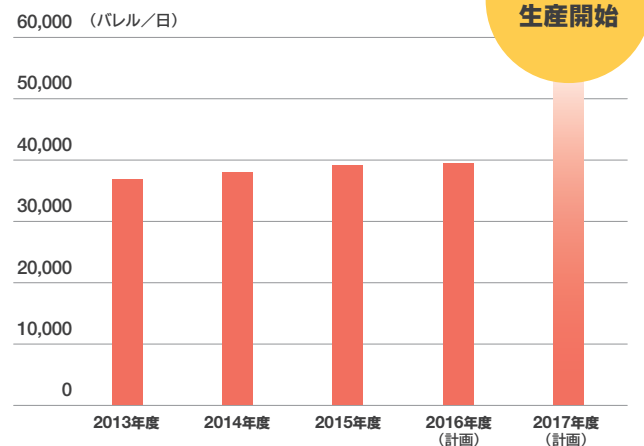


アブダビ石油、カタール石油開発、合同石油開発の3社を主なプロジェクト会社とするコスモエネルギー開発の2015年度の原油生産量は、前年比3.1%増加の日量39,201バレルとなりましたが、一方で原油販売価格下落の影響が大きく、石油開発事業のセグメント経常利益は前年比289億円減の186億円となりました。2016年度は、原油価格は40ドル/バレル(前年度1-12月の実績50.9ドル/バレル)、為替は110円/ドル(前年度1-12月の実績121.1円/ドル)を前提としていることから、セグメント経常利益は同111億円減の75億円を計画しています。

コスモエネルギーグループの鉱区



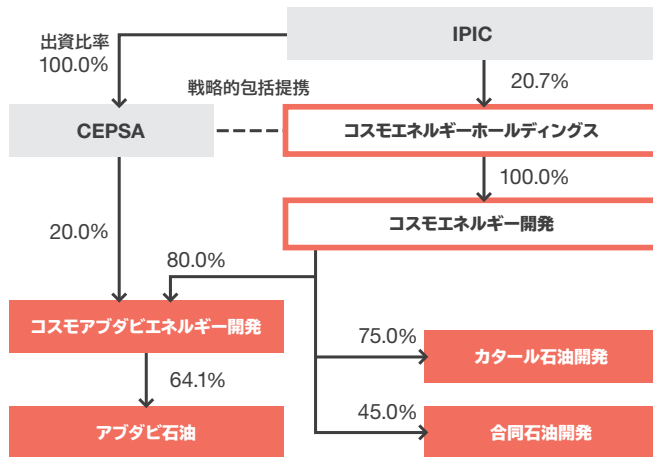
コスモエネルギーグループ原油生産量の推移





強み

- 当社の筆頭株主であるIPICの出資先、セブサとのアライアンス
- 約50年にわたる中東での安定した海上油田開発実績
- アブダビ石油の既存3油田の30年間の権益延長とハイル鉞区取得



原油埋蔵量評価（当社権益分）※1

確認埋蔵量 (Proved Reserves) ※2	80.2百万BBL
推定埋蔵量 (Probable Reserves) ※3	81.2百万BBL
確認埋蔵量と推定埋蔵量の合計	161.4百万BBL
確認+推定埋蔵量の可採年数	約24年

※2015年12月31日現在

※埋蔵量には新鉞区であるハイル油田を含んでいます。

※当社権益分の2015年1～12月平均原油生産量約19千バレル/日

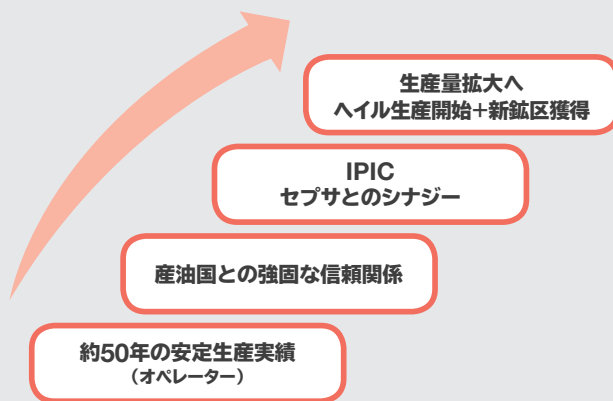
※1 当社の将来の収益へ及ぼす影響が大きいと考えられるアブダビ石油の埋蔵量につきましては、原油埋蔵量に関する独立評価会社としては世界有数の会社であるGaffney, Cline & Associates (以下、GCA) による第三者評価を受けております。カタール石油開発および合同石油開発の埋蔵量評価に関しては、両社が独自に実施した自社評価となります。なお、原油埋蔵量評価は、当社が埋蔵量又は原油回収量を保証するものではありません。

※2 確認埋蔵量とは、地質学的、工学的データの解析により、ある時点以降に既知の貯留層から現状の経済条件、操業方法と規制の下で商業的に回収されることが合理的確実さをもって予想される石油の量をいいます。また、確率論的手法が用いられるならば、確認埋蔵量が回収できる確率が、90%以上なければならない、とされています。(SPE PRMS 2007年3月による定義)

※3 地質学的、工学的データの解析により、おそらく回収できると考えられる未確認埋蔵量をいいます。また、確率論的手法が用いられるならば、確認+推定埋蔵量が回収できる確率が、50%以上なければならない、とされています。(SPE PRMS 2007年3月による定義)

長期の企業価値創造のための取り組み

アブダビ石油においては、産油国との強固な信頼関係を礎に2012年から30年間の権益延長を果たすと同時に、既存3油田（ムバラス油田、ウム・アル・アンバー油田、ニーワット・アル・ギャラン油田）に匹敵する生産量が期待されるハイル鉞区を取得、2017年上半期の生産開始に向けて開発を推進しています。ハイル油田は、既存油田に隣接し、出荷設備等も共有可能なコスト競争力の高い大型プロジェクトであり、コスモエネルギーグループの石油開発事業の収益安定への早期の貢献が期待されます。また、アブダビ国営石油会社（ADNOC）、セブサ、コスモエネルギーグループの3社でワークショップを定期的開催し、共同で更なる新鉞区獲得や事業拡大の可能性を模索しています。



ハイル開発の進捗と開発スケジュール

- 2017年上半期、生産開始予定（2016年度より掘削作業開始）
- 生産量はピーク時でアブダビ石油の既存3油田と同程度を想定
- 既存設備の活用により、単位あたりの操業コスト低下を見込む

